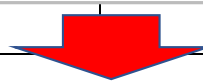


文化庁との調整結果及び今後の流れについて

年	組織	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和 8 年度 (3年目)	庁外										シンポジウム		
	庁内				第八回協議会				第一回推進協議会(案)		第二回推進協議会(案)		
	文化庁	認定準備 関係省庁調整			認定申請	認定予定							



○文化庁との調整経過（2026年7月2日時点）

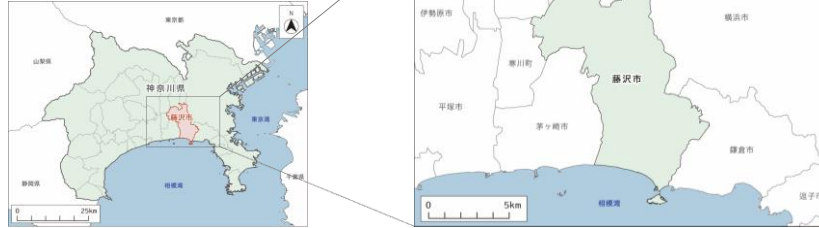
	文化庁	藤沢市
2026年4月8日	地域計画・報道発表資料の提出依頼	
2026年4月22日		地域計画(案)、資料編、措置表を提出
2026年5月7日	計画本文、調査官コメントに対する回答依頼	
2026年5月15日		文化審議会諮問資料 兼 報道発表資料を提出
2026年6月1日		調査官コメントを一部反映した地域計画の再提出
2026年6月2日～6月15日	関係省庁事前協議	
2026年6月26日		神奈川県からの答申を付して、令和 8 年度上半期「文化財保存活用地域計画」認定申請書を文化庁へ提出
2026年7月1日～7月3日	関係省庁本協議	
2026年7月17日	文化庁 文化審議会文化財分科会への諮問・答申、同日報道発表（予定）	

藤沢市文化財保存活用地域計画【神奈川県】

【計画期間】令和8～15年度（8年間）

【面積】69.56km²

【人口】約44.3万人



指定等文化財件数一覧

指定等文化財は154件、未指定文化財は8,898件把握

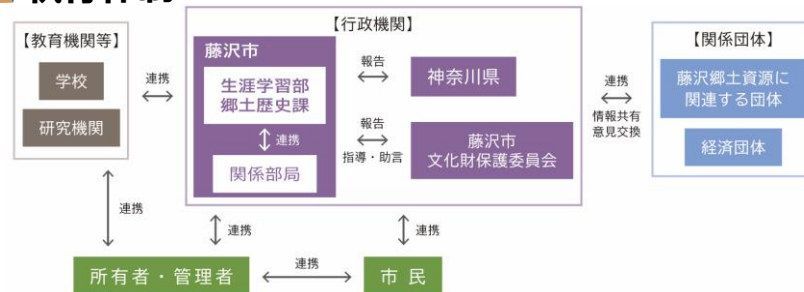
類型		国指定・選定	国選択	県指定	市指定	国登録	合計
有形文化財	建造物	0	-	0	11※4	42	53
	美術工芸品						
	絵画	3(1)	-	4	5	0	12
	彫刻	2	-	0	11	0	13
	工芸品	0	-	3	3	0	6
	書跡・典籍	2	-	1	3	0	6
	古文書	0	-	0	1	0	1
	考古資料	1	-	0	3	0	4
無形文化財	歴史資料	0	-	0	6	0	6
		0	0	0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	-	2	22	0	24
	無形の民俗文化財	0	0	2	8	0	10
記念物	遺跡	1	-	0※3	10	0	11
	名勝地	0	-	1※3	0	0	1
	動物・植物・地質鉱物	0	-	0	7	0	7
文化的景観		0	-	-	-	-	0
伝統的建造物群		0	-	-	-	-	0
合計		9(1)	0	13	90	42	154

※1 ()内は国宝の数

※3 県指定史跡・名勝である江ノ島は、本表では名勝地として計上

※2 制度として存在しないものは「-」 ※4 市指定建造物のうち、江の島弁財天道標は12基をまとめて1件として計上

執行体制



歴史文化の特徴

水が造りあげた大地のかたち ～地形を巧みに利用した人々の営み～

相模野台地の南端部に位置する本市は、水に恵まれた土地である。水によって形作られた特徴的な地形は、さまざまな用途で人々の営みを支えてきた。



遠藤笹窪谷戸

湘南の海と砂丘 ～相模湾がもたらした多彩な恵み～

湘南を代表する観光地の一つである藤沢南部は、海の賜物といえる。海がもたらした多彩な恵みは、藤沢を「湘南」たらしめ、発展の礎となった。



現存する湘南砂丘の景観(辻堂元町)

信仰が集めた人と物 ～願いがもたらした藤沢の歴史文化～

本市に所在する社寺は、人々の信仰を集め、また多くの人や物を集めた。それらにより生み出された藤沢郷土資源が、藤沢の歴史文化を特徴付けている。



江の島 天王祭

藤沢を形作った陸の道・海の道 ～東海道とさまざまな道が呼び込んだ発展～

本市は東海道や多くの街道が交差する交通の要衝である。それらの道は多くの人や物をもたらし、発展を呼び込んだ。



歌川広重「東海道 七 五十三次 藤沢」
(隸書版東海道)



藤沢を形作った陸の道・海の道 イメージ図

さまざまな風土によって生み出された多様な生業 ～多彩な地理的特徴に基づいた藤沢の地域色～

藤沢市域は、台地や砂丘、海や川など、多彩な地理的特徴を持つ。場所によって大きく変わる豊かな地域色は、藤沢らしさの一つである。



人形山車（皇大神宮）

藤沢郷土資源の保存・活用に関する将来像・基本目標・課題・方針・取組

将来像 **藤沢郷土資源を未来へ** ～藤沢郷土資源をつないで みんながつながるまち～

基本目標	課 題	方 針	取組の例
知る 基本目標1 魅力 藤沢郷土資源を 伝える	1 藤沢郷土資源の把握調査が不十分	1 藤沢郷土資源の把握調査を推進する	2-1 継続的な現況調査の実施 市内に所在するさまざまな藤沢郷土資源に対して、これまでに把握している記録をもとに、必要に応じて所有者や管理者を確認のうえ、現況調査を行う。経年変化など、藤沢郷土資源の保存状況を確認めながら、その変化の有無を問わず記録簿を作成する。 主体：行政機関/所有者・管理者/市民/教育機関等 期間：R8-15
	2 藤沢郷土資源の現状確認が必要	2 藤沢郷土資源の現状を確認する	
	3 収蔵資料の整理が不十分	3 収蔵資料の整理を推進する	
	4 藤沢郷土資源に関する情報発信の強化が必要	4 藤沢郷土資源に関する情報発信を強化する	
未来へつなげる 基本目標2 まもる 藤沢郷土資源を守り、 つなげる	5 藤沢郷土資源を適切に管理し滅失を防ぐことが必要	5 藤沢郷土資源の保存・管理を推進する	7-1 新たな収蔵庫の整備 適切な収蔵環境を確保するとともに、藤沢郷土資源を継続的に保存・管理するため、新たな収蔵庫を整備する。 主体：行政機関 期間：R8-15 9-4 無形の民俗文化財の活動支援 歴史ある民俗芸能・行事が将来にわたって継続できるよう、それらを継承する保存会の活動を支援する。 主体：行政機関/所有者・管理者/市民/関係団体 期間：R8-15
	6 藤沢郷土資源の維持管理に関する所有者等の負担が大きい	6 藤沢郷土資源の所有者等の負担軽減を図る	
	7 藤沢郷土資源に関する収蔵環境の整備が必要	7 藤沢郷土資源の収蔵環境を整備する	
	8 藤沢郷土資源の防火・防災体制の強化が必要	8 藤沢郷土資源の防火・防災体制を強化する	
	9 藤沢郷土資源を継承する担い手の不足	9 藤沢郷土資源の新たな担い手を育成する	
活かす 基本目標3 活用 藤沢郷土資源 を 活かす、 みんな がつな	10 藤沢郷土資源を活用した展示が不十分	10 藤沢郷土資源を活用した展示を推進する	13-1 文化財フォーラムの開催 藤沢郷土資源の保存と活用に関する普及啓発を図るとともに、さまざまな主体による取組を発表することで、活動の支援と各主体の関係性づくりを図ることを目的に、文化財フォーラムの開催を検討する。 主体：行政機関/所有者・管理者/市民/関係団体/教育機関等 期間：R8-15
	11 歴史的建造物の適切な活用が必要	11 歴史的建造物の適切な活用を推進する	
	12 藤沢郷土資源を活用したにぎわいの創出が不十分	12 藤沢郷土資源を活用したにぎわいを創出する	
	13 藤沢郷土資源に関する連携が必要	13 藤沢郷土資源に関する連携を強化する	

藤沢市文化財保存活用地域計画【神奈川県】

藤沢郷土資源に歴史文化の特徴によるストーリー性を持たせた「ふじさわ歴史ストーリー※」を設定する。

ストーリーに基づき藤沢郷土資源を活かした調査や普及啓発を進めていくことで、身近な藤沢郷土資源に対する地域の理解が深まるとともに、まちづくりや地域活性化の推進につなげる。

※ふじさわ歴史ストーリー…「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画作成等に関する指針」における関連文化財群に相当するもの。

1 藤沢を駆けた武士たち

藤沢市域では中世に多くの武士が活躍した。鎌倉党をはじめとする武士の活動は、市内各地に遺跡として遺り、地名や伝承からは彼らにゆかりを求めた人々の思いも感じられる。清浄光寺（遊行寺）の草創と発展は、武士との深いつながりがある。戦国時代前期の山城である大庭城跡には、現在も堀や土塁の跡が残り、周辺に残る地名や伝承とともに、当時の様子を今に伝えている。



大庭城跡



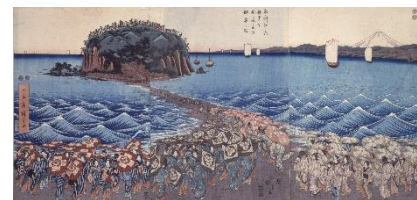
木造薬師如来坐像（養命寺）

2 信仰と観光の島、江の島

江の島は島そのものが藤沢郷土資源であり、島内に多くの藤沢郷土資源を内包している。江の島の伝説は信仰と結び付き、参詣の人々でにぎわった。また、島に暮らす人々によって行われる八坂神社の江の島天王祭も特徴的である。近代以降も幅広い人々に愛されている江の島は、霊地と観光地の顔を併せ持つ、独特な土地といえる。



江の島シーキャンドル



江の島を題材とした浮世絵（歌川広重「相州江之嶋弁才天開帳参詣群集之図」）

3 旅人と商人でにぎわうまち、藤沢宿

東海道の宿場町であった藤沢宿は、参詣旅の流行などによって多くの人でにぎわい、その様子は浮世絵にも多く描かれた。近代になると、商業の街として栄え、現在も所在する歴史的建造物や街道沿いの寺院は、江戸時代からの街並みの移り変わりを今に伝えている。



木造蓮華座 附 木造聖観音立像
（常光寺）



桔梗屋 店蔵・主屋・文庫蔵

4 日々の営みと人々の祈り

多様な生業によって支えられた日々の営みのなかで、人々は伝統文化・慣習として多くのものを現在まで伝えている。また、社寺を中心に行われる祭りには、人々のさまざまな祈りが込められている。



藤沢の信仰用具コレクション



辻堂諏訪神社人形山車 4基



相模のささら踊り

概要

東海道の宿場町であった藤沢宿は、参詣旅の流行などによって多くの人ににぎわい、その様子は浮世絵にも多く描かれた。近代になると、商業の街として栄え、現在も所在する歴史的建造物や街道沿いの寺院は、江戸時代からの街並みの移り変わりを今に伝えている。

課題

- ◆ かつての藤沢宿の様子を今に伝える藤沢郷土資源が少なく、魅力が十分に認知されていない。
- ◆ 藤沢宿に関連する藤沢郷土資源が点在しているため、一体的な活用を行うにくい環境にある。
- ◆ 歴史的建造物を活用した藤沢宿の魅力づくりが十分に行われていない。

方針

- ◆ 旧東海道藤沢宿周辺地域に点在する藤沢郷土資源の魅力についての情報発信を強化し、認知度を高める。
- ◆ 点在する藤沢郷土資源の一体的な活用をめざし、案内マップ等の整備を検討する。
- ◆ 歴史的建造物を活用した藤沢宿の魅力づくりを進めていくため、調査や整備を進める。

主な取組

2-1-3 継続的な現況調査の実施

ふじさわ歴史ストーリーを構成する藤沢郷土資源の現状を確認するための調査を行う。

主体：行政機関/所有者・管理者/市民/教育機関等 期間：R8-15

4-2-3 SNSによる情報発信の強化

藤沢宿に関連する藤沢郷土資源の魅力などの情報をより幅広い層に届けるため、SNSによる情報発信を行う。

主体：行政機関/所有者・管理者/市民/関係団体/教育機関等 期間：R8-15

11-2-1 保存活用計画の作成支援

保存・活用を図るために必要な事業等の実施計画を定め、これに基づいて中・長期的な観点から効果的な取組が進められるよう保存活用計画の作成を支援する。

主体：行政機関/所有者・管理者 期間：R8-15

ストーリーを構成する藤沢郷土資源分布図

